

南北海道情報教育研究会 20 周年記念研究大会に参加して

乙部町立明和小学校

教頭 佐々木 朗

1. 大会名

第 58 回北海道視聴覚教育研究大会兼道南情報教育研究会ネットワーク 1 周年記念大会兼南北海道情報教育研究会 20 周年記念大会

2. 期日 平成 24 年 10 月 26 日

3. 場所 七飯町立大沼小学校

4. 内容

(1) 授業公開

中学校 3 年数学「円 J-ICT 機器の有効活用」

授業者 小林政樹(七飯町立大沼中学校教諭)

(2) 研究協議

① 研究主題説明 馬場一徳(八雲町立八雲小学校教諭)

② 研究授業についての討議 助言 北海道教育庁渡島教育局教育支援課 義務教育指導班指導主事 里館幹彦様

④ 実践事例発表 情報モラルの指導の実践～教育ソフト「スタモパ LAN」の活用～発表者 児玉光晴(函館市立赤川小学校教諭)

(3) 祝賀会 (函館市末広町五島軒)

道南情報教育研究会ネットワーク 1 周年記念

南北海道情報教育研究会 20 周年記念

5. 内容のまとめ

(1) 公開授業について

授業は中学校 3 年生の円周角の最初の導

入であった。最初は、限られた角度しか見えないカメラ模型により、黒板の両端が見える点をプロットしていくとそれが円になることを確認した。次に 3 つのグループに分かれ、教室の時計、体育館のバスケットのサークル、中庭の円く大きな石だたみを使って、2 点を通り円周を結ぶ角度が一定であることの実験をするものであった。

ICT 機器の利用としては、

① 電子黒板機能を持つ大きなテレビ

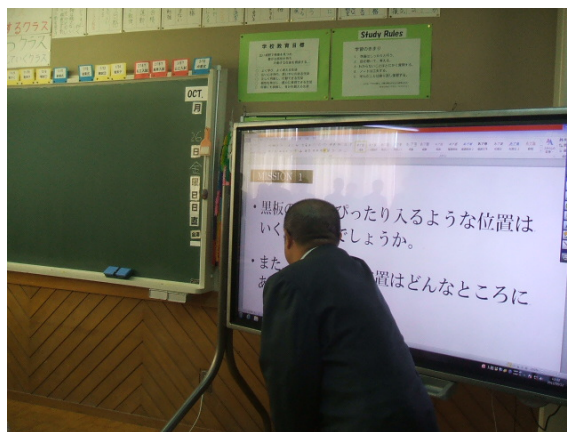
② iPad

③ デジタルカメラ

④ ビデオカメラ

などが活用されていた。

① のテレビはかなり大きい。windows で動



いており、ビデオや写真、課題などの提示に使われていた。また、文字や線を自由に書き込むことができる。生徒もなれているようで、それらを駆使しながら説明をしていた。

② の iPad は、提示の補助として、生徒の

氏名をランダムにするくじとして、まとめの問題の提示装置として、また、15分という作業時間を示すタイマーとして使われていた。



③デジカメについては、各班ごとに持たせ、実験結果を撮影し、データをカードでデジタルテレビに入れ、説明に使っていた。

④ビデオカメラは事前のビデオ作りに活用された。2点を通る同じ角を持つ点になることのシュミレーション、また、3つのグループに分かれて実験するときの手順などがまとめられており、子どもたちに効果的に指導することができた。



(2) 研究発表について

① 南北海道情報教育研究会の研究

ア. 研究大会主題

『生きる力を育むための情報活用能力の育成』

～確かな学力の育成に対応した情報教育のあり方を求めて～

イ. 情報教育の位置づけ

○小学校段階では、各教科等において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの積極的な活用を通じて、その基本的な操作の習得や、情報モラル等に係わる指導の充実を図る。

○中学校段階では、各教科等において、小学校段階の基礎の上に、コンピュータや情報通信ネットワークなどを主体的に活用するとともに、情報モラル等に関する指導の充実を図る。

○高等学校段階では、各教科等において、小学校及び中学校段階の基礎の上にコンピュータや情報通信ネットワークなどを実践的に活用するとともに、情報モラル等についての指導の充実を図る。

ウ. 確かな学力と情報教育

< 確かな学力 >

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- 知識・技能を活用して課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力
- 学習意欲



< 情報教育 >

- コンピュータや情報通信ネットワークの活用
- 視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の活用

(3) 研究発表

情報モラルの指導の実践

～教育ソフト「スタモバLAN」の活用～

函館市立赤川小学校教諭 児玉 光晴

① 授業のねらい

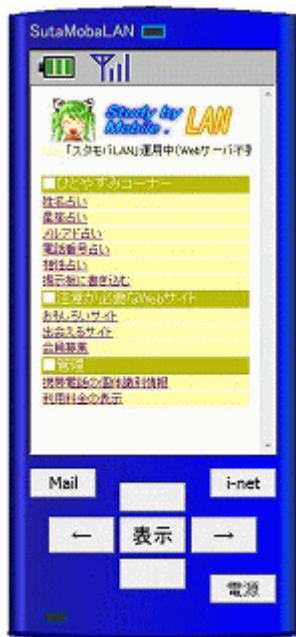
「個人情報」の保護を中心に指導を進め、

疑似体験を取り入れ、より現実的な事例を元に進めた。内容として、メールのやりとり、疑似サイトへのアクセス、プロフの体験など

②利用ソフト

スタモバLAN～は岩手県立総合教育センターで開発された情報モラル指導用のソフト。特徴として

・共有フォルダ内に置くだけでWIFIのみで動作する。



・携帯電話風である。

・メールのやりとりができる。

・迷惑メールの受信機能

・会員募集サイトの設定

・データの収集と程度

・WEBカメラを使った写真の送付

・プロフ体験など

http://www1.iwate-ed.jp/tantou/joho/moral/sutamoba_lan/index.html

③成果と課題

ア. 成果

・個人情報の取り扱いが明確になり、便利さと共に警戒心を育てることができた。

イ. 課題

・個人情報を発信すべき時とそうでない時の分かれ目

・保護者の理解

・携帯電話に興味のない子に、返って興味を持たせてしまう心配。

(4) 祝賀会

午後7時から会場を末広町の五島軒に写して祝賀会を行った。

南北海道情報教育研究会設立20周年記念 道南情報教育研究会ネットワーク設立1周年記念 祝賀会

とき 平成24年10月26日(金)

ところ 五島軒



主催: 南北海道情報教育研究会・道南情報教育研究会ネットワーク

26名ほどが集まり、懇親を深めた。

また、第5代会長藤井壽夫氏、第6代会長吉井保弘氏に感謝状が贈られた。



6. 感想

私が日高での8年の教員生活を終え、渡島に戻ってきた頃、中学校において選択ではありながら、情報基礎が入ってきて、各中学校はあたふたしていた頃であった。小

学校にはパソコンがいるとかいないとかという論議があった頃である。

茂辺地中学校に惜しくも故人となってしまった入間川先生をはじめ、数人が集まって、研究会の立ち上げの準備をした。彼が幹事長、私が副幹事長職であった。

2年後私が幹事長となり6年間会を切り盛りしてきた。今思うと恥ずかしいのであるが、振り返ると学校の仕事以上に情報教育研究会の業務に力をいれていた時代だった。いろんな新しい取り組みをして、情報研は、渡島の研究会の中でも一目置かれる存在になった。

当時から大切にしていた3つの柱は、講習会、研究大会、研究紀要である。会長、幹事長が替わってもこの流れはずっと今に受け継がれており、今後も大切にしていきたいと願っている。

会が始まった頃の研究は、「コンピュータをどんどん使え」というところにあった。使ってみてそれが有効であるかどうかを検証していった。しだいにコンピュータが学校に当たり前に入って来だす頃には、「有効性」と問う研究に移り変わっていった。そして、インターネットが子どもたちにも入り込んできた2000年頃のiモードの携帯が出た頃からは、情報の影の部分に目を向ける研究も大切になってきた。私の大学院の修士論文もそれに関わるものである。

ずっと昔は、学校は家にはないものがあった。ビデオやOHPなどがそうであったろう。ところがICT機器については逆転現象が起こっている。家庭が先行して学校が追いついていない。もっと言えば、先生方が子どもたちが家でネットとどのように関わっているのかを把握できて

いない。言い換えれば指導に手が回っていない状況である。

今回の授業は、普段からやるにはありえないだけ機器を使った授業をしている。いわゆる「提案授業」ということになる。

今回の授業でも証明されたように、ICT機器を効果的に使うことで、子どもたちの興味をととても引きつけることができる。また、説明も動画を入れることにより、よりわかりやすいものになる。などたくさん有効性が示された。

私たち第一線の研究者は、常に最新の情報機器に目を向けてそれを積極的に活用することに努力を惜しまないでいたいし、それらを使った授業を積極的に行い、その成果を発信していくことが強く求められる。

また、職場においても、校務の情報化に積極的に取り組み、情報機器を使って校務にかかる時間短縮をねらい、時間外勤務の縮減や児童に向き合う時間の確保などができるように努力していくことが大切である。

さらに檜山情報教育研究会も今年度から道南情報教育ネットワークの一員となった。学ぶべきことの多くを組織を通して学び、檜山の情報教育の発展、教育のICT化、そして校務の情報化に努めていく決意を新たに下。

振り返ると20年はあっという間に過ぎてしまった。でもいろんな取り組みをして発信することができたことは、振り返ると楽しい教員生活だったと思う。あと8年であるが、情報教育に対する熱意はいつまでも、研究会を立ち上げようとしていた20代、そして会の切り盛りをしていた30代の頃と同じテンションに保って、これからも第一線で研究を進めていきたい。

